

基本調査

第 I 部 調査の概要

1 調査の目的

生活の各分野における県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 暮らし全般（生活総合満足度、暮らし向きの変化、今後の暮らし向きの見通し、地域の住みよさ、定住意向）
- (2) 生活意識
- (3) 暮らしの満足度（身近な生活に関する 48 項目についての重要度及び満足度）
- (4) 県行政への要望

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 平成 30 年 8 月 10 日（金）～9 月 3 日（月）
- (7) 調査機関 株式会社 綜研情報工芸

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標 本 数	3,000 標本
有効回収数	1,330 標本 〔 郵送回答 : 1,161 件 インターネット回答 : 169 件 〕
有効回収率	44.3 %

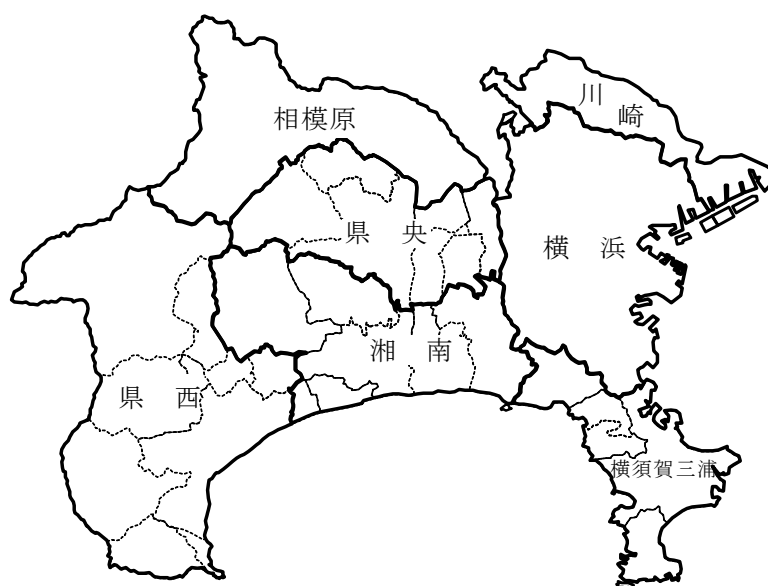
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	512	42.7%
川崎	川崎市	460	193	42.0%
相模原	相模原市	220	91	41.4%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	110	42.3%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	118	39.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	213	48.4%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	48	40.0%
無 回 答			45	
全 体		3,000	1,330	44.3%

5 標本の抽出方法について

- ① 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- ② 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（平成29年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- ③ 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,143,569人 60地点 1,200標本	-	-	3,143,569人 60地点 1,200標本
川 崎	1,231,558人 23地点 460標本	-	-	1,231,558人 23地点 460標本
相模原	608,370人 11地点 220標本	-	-	608,370人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	580,019人 12地点 240標本	26,319人 1地点 20標本	606,338人 13地点 260標本
県 央	-	673,711人 14地点 280標本	36,340人 1地点 20標本	710,051人 15地点 300標本
湘 南	-	1,002,536人 20地点 400標本	91,010人 2地点 40標本	1,093,546人 22地点 440標本
県 西	-	200,499人 4地点 80標本	93,675人 2地点 40標本	294,174人 6地点 120標本
人口計	4,983,497人	2,456,765人	247,344人	7,687,606人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（平成29年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差をとり、「…ポイントの差」と記載した。
- (7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数（ n ）、および回答比率（ P ）ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ P ） 回答者数（ n ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,330	± 2.33	± 3.10	± 3.55	± 3.80	± 3.88
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ n ）が 1,330 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.80%以内（真の値は、56.20%～63.80%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 330) (%)

横浜	38.5
川崎	14.5
相模原	6.8
横須賀三浦	8.3
県央	8.9
湘南	16.0
県西	3.6

(無回答 3.4)

(2) 性別 (n=1, 330) (%)

男性	45.9
女性	50.2

(無回答 4.0)

(3) 年齢 (n=1, 330) (%)

18～19歳	0.7
20～29歳	7.7
30～39歳	12.0
40～49歳	18.0
50～59歳	15.7
60～69歳	21.3
70～74歳	8.3
75歳以上	12.7

(無回答 3.6)

(4) 65歳以上の同居者の有無

(n=1, 330) (%)

いる	48.8
いない	47.4

(無回答 3.8)

(6) インターネットの利用状況

(n=1, 330) (%)

よく利用する	54.4
ときどき利用する	17.5
あまり利用しない	7.2
利用しない	17.4

(無回答 3.5)

(5) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 330) (%)

小学校入学前	8.9
小学校在学中	10.0
中学校在学中	6.0
高校在学中	7.7
短大、専門学校等在学中	0.8
大学、大学院等在学中	5.3
学校教育終了[未婚]	21.8
学校教育終了[既婚]	26.8
その他	2.9
子どもはいない	30.1

(無回答 4.4)

(7) 職業区分 (n=1, 330)

(%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	6.4
	家族従業者	1.3
勤め・内職	勤め (フルタイム)	36.4
	勤め (パートタイム)	14.4
	内職	0.1
主婦・主夫 (勤めについていない)		17.5
学生		2.7
無職		15.9
その他		1.1

(無回答 4.3)

(7-1) 有職者の職業内容 (n=778)

(%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.8
	商工サービス業	6.8
	自由業	4.9
勤め・内職	経営・管理職	8.2
	専門・技術職	19.3
	事務職	20.7
	教育職	5.3
	技能・労務職	11.1
	販売・サービス職	20.1

(無回答 3.0)

